

## 「ナザレでの拒否」

§ 039 ルカ 4：16～30

### 1. はじめに

(1) ガリラヤ伝道が始まっている。

- ①約1年半続く。
- ②前回は、カナにおいて「第2のしるし」が行われた。
- ③実際は、カペナウムで起こった奇跡である。
- ④イエスが、時間と空間を超えて奇跡を行う方であることが示された。
- ⑤「しるし」とは、イエスのメシア性を示すものである。

(2) その後、イエスは故郷のナザレに行かれた。

- ①この箇所は、ナザレにおける第1回目の拒否である。
- ②マコ6：1～6には、第2回目の拒否が出て来る。
- ③この二つは、別の記事である。

(3) A. T. ロバートソンの調和表  
ナザレでの最初の拒否 (§ 39)

(4) 優れたメッセージを聴きたいという願望

- ①ビリー・グラハム、②ジョン・ストット、③イエスのメッセージを聴く特権

### 2. アウトライン

- (1) 会堂での礼拝の様子 (16～19 節)
- (2) イエスのメッセージ (20～27 節)
- (3) ナザレの人々の応答 (28～30 節)

### 3. メッセージのゴール

- (1) ナザレの象徴的意味
- (2) イエスの奉仕のパラダイム (枠組み)

このメッセージは、ナザレで起きたことの象徴的意味を学ぼうとするものである。

## I. 会堂での礼拝の様子 (16～19 節)

### 1. 会堂に入るイエス

「それから、イエスはご自分の育ったナザレに行き、いつものとおりに安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた」（16節）

(1) ルカは、ナザレがイエスの育った村だという情報を伝えている。

①ルカ2:51では、12歳のイエスがナザレに帰り、両親に仕えたと記されている。

(2) イエスには、安息日に会堂に行く習慣があった。

①会堂は、神殿ではない。

②バビロン捕囚以降、ディアスポラの地だけでなく、約束の地にも広がった。

③信仰を大切にしている善良なユダヤ人なら、安息日には会堂に行った。

(3) 「朗読しようとして立たれた」

①自分勝手に、そうしているのではない。

(4) 当時の習慣

①トーラーの朗読

\*その週の朗読箇所が決まっている（数章を部分に分け、月、木、土に朗読）。

\*1年のサイクルが終わると、シムハット・トーラーという祝いをする。

\*仮庵の祭りの最終日がそれに当たる。

\*2012年の今年は、10月7日の夜から始まる。

\*紀元1世紀の頃は、3年サイクルで朗読していた。

②預言書の朗読

\*その日のトーラーの箇所と関連した箇所

\*ハフタラーという（結論という意味）。

③朗読の後、奨励のメッセージが語られる。

\*朗読する時は、立って朗読した。

\*奨励のメッセージの時は、座った。

④朗読も、奨励のメッセージも、会堂管理者の判断で行われた。

使13:14~15（パウロとバルナバの例）

「しかし彼らは、ペルガから進んでピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂に入って席に着いた。律法と預言者の朗読があつて後、会堂の管理者たちが、彼らのところに人をやってこう言させた。『兄弟たち。あなたがたのうちどなたか、この人たちのために奨励のことばがあつたら、どうぞお話しください』」

(5) 会堂管理者がイエスを前に招いた。

①イエスは、ガリラヤ一帯で有名になっていた。

- ②また、尊敬されていた(ルカ4:14~15)。
- ③人々の間に期待感があった。

## 2. 朗読するイエス

「すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけられた」(17節)

- (1) イエスは立って、朗読した。
  - ①これは、ハフタラー(預言書)である。
  - ②イザヤ書である。
  - ③この書は、巻物である。死海写本では、ひとつの巻物になっている。
  
- (2) イエスは、その安息日に朗読が予定されていた箇所を読んだのか。
  - ①もしそうなら、ここには摂理的な導きがある。
  - ②恐らく、そうではないだろう。
  - ③イエスは、自らイザヤ書中の特定の箇所を探し、そこを読まれたのだろう。

## 3. 朗読された箇所

「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために」(18~19節)

### (1) イザ61:1~2の引用

「神である主の霊が、わたしの上にある。【主】はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、【主】の恵みの年と、われわれの神の復讐の日を告げ、すべての悲しむ者を慰め、」

- ①イザ61:1~3は、メシア預言と考えられていた。
  
- (2) 2つの変則的事項が起こっている。
  - ①当時は、最低3節を朗読したが、イエスは途中で止めている。
  - ②2節の後半「われわれの神の復讐の日を告げ、」も読まなかった。
    - \*これは再臨の時に成就する預言である。
    - \*ローマの圧政に苦しむナザレの人たちには、不満が残る。

## II. イエスのメッセージ (20～27 節)

### 1. 朗読から勧めのメッセージへの移行

「イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。会堂にいるみな目の目がイエスに注がれた」(20 節)

(1) メッセージの時は、座るのが当時の習慣である。

①そのまま自分の席に帰らなかったのは、メッセージが始まることへのしるし。

(2) 出席者は、イエスに注目した。

①ルカ 22 : 56 では、女中がペテロを見た目。「まじまじと見て」

②2 コリ 3 : 7 では、山から下りてきたモーセの顔を見る目。「見つめる」

③イエスの内に、単に優れた説教者以上の何かがあったのだろう。

### 2. 最初のことば

「イエスは人々にこう言って話し始められた。『きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました』」(21 節)

(1) イエスは、最初のことばの重要性を知っていた。

①ここは、講解メッセージにおいて、最初に適用を語るようなものである。

(2) 訳文の比較

「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました」(新改訳)

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(新共同訳)

「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」(口語訳)

「この聖書今日なんぢらの耳に成就したり」(文語訳)

(3) イエスのメシア宣言

①ユダヤ人たちが長年待ち望んできたメシア

②イザヤが預言していたメシア

③そのメシアが、今ナザレの会堂に立ち、旧知の人々の前で語っている。

④強調は、「きょう」という言葉にある。

⑤今、待ち望んでいた「終末の時代」が到来した。

### 3. 聴衆の反応

「みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた。そしてまた、『この人は、ヨセフの子ではないか』と彼らは言った」(22 節)

(1) 積極的反応

- ①イエスは、噂通り、あるいは、それ以上のお方である。
- ②恵みのことばは、予想をはるかに超えるものである。

(2) 消極的反応

- ①「この人は、ヨセフの子ではないか」
- ②「いったいどうなってんだ。ただのヨセフのせがれじゃないか」(リビングバイブル)
- ③「あいつは、ヨセフの小僧じゃねえのか」(私訳)
- ④これは、「Yes」という答えを求める質問の形である。

4. イエスの応答

「イエスは言われた。『きっとあなたがたは、『医者よ。自分を直せ』というたとえを引いて、カペナウムで行われたと聞いていることを、あなたの郷里のここでもしてくれ、と言うでしょう』。また、こう言われた。『まことに、あなたがたに告げます。預言者はだれでも、自分の郷里では歓迎されません』(23～24節)

(1) 「医者よ。自分を直せ」というたとえの意味

- ①名医であることを証明するために、まず自分の病を癒してみろ。
- ②ここには、皮肉が込められている。
- ③日本の格言
  - \* 「紺屋(こうや)の白袴」
  - \* 「医者の不養生」

(2) ナザレの人々の期待

- ①メシア性を主張するなら、カペナウムで行われたのと同様の奇跡を行え。
- ②自分の郷里でまず奇跡を行うべきではないか。そうしたら信じてやる。

(3) 「預言者はだれでも、自分の郷里では歓迎されません」

- ①イエスは、ナザレ以外の場所では大いに尊敬された。
- ②ナザレの人々の問題は、プライドである。  
(例話) その教会の信徒であった人が、牧師として立つのは容易ではない。

5. 旧約聖書の例

「わたしが言うのは真実のことです。エリヤの時代に、三年六か月の間天が閉じて、全国に大ききんが起こったとき、イスラエルにもやもめは多くいたが、エリヤはだれのところにも遣わされず、シドンのサレプタにいたやもめ女にだけ遣わされたのです。また、預言

者エリシャのときに、イスラエルには、ツァラアトに冒された人がたくさんいたが、そのうちのだれもきよめられないで、シリヤ人ナアマンだけがきよめられました」(25～27節)

(1) エリヤの例

①1列17～18章

②「シドンのサレプタにいたやもめ女」とは、異邦人の女である。

(2) エリシャの例

①2列5章

②「ツァラアト」（新改訳）、「重い皮膚病」（新共同訳）

③「シリヤ人ナアマン」は、異邦人の将軍である。

(3) 共通している点

①イスラエルは不信仰の状態にあった。

②そこで神は、イスラエルではなく、異邦人を祝福された。

### III. ナザレの人々の応答（28～29節）

#### 1. 激怒する人々

「これらのことを聞くと、会堂にいた人たちはみな、ひどく怒り、立ち上がってイエスを町の外に追い出し、町が立っていた丘のがけのふちまで連れて行き、そこから投げ落とそうとした」(28～29節)

(1) 激怒の理由

①自分たちのことを言われている。

②ユダヤ人よりも、異邦人が優遇される。

(2) 激怒の結果

①会堂にいた人たち全員が立ち上がり、イエスを町の外に追い出した。

②丘の崖のふちから、イエスを投げ落とそうとした。

\*今も、「突き落としの崖」と言われる場所がある。

#### 2. イエスの脱出

「しかしイエスは、彼らの真ん中を通り抜けて、行ってしまわれた」(30節)

(1) 逃れた方法については、記されていない。

①むしろ、死ななかつた意味の方が重要である。

②十字架の時が来ていないからである。

結論：

1. ナザレの象徴的意味

(1) メシア預言の直接的成就がある。

①イザ61:1~2

(2) メシアの型がある。

①エリヤ

②エリシャ

(3) ナザレはイスラエル全体を象徴する小宇宙である。

①ナザレは2度にわたってイエスを拒否する。

②イスラエルは徐々にイエスを拒否する方向に向かう。

③「突き落としの崖」の事件は、イエスの死を予感させる。

\*ただし、読者には最後までそれが隠されている。

2. イエスの奉仕のパラダイム(枠組み)

(1) 今、メシア預言が成就し、終末時代に入った。

(2) イスラエルはイエスをメシアとして受け入れない。

①メシア的王国の提供を拒否した。

(3) そこで、異邦人が救いに招かれる。

①これが教会時代の出来事である。

②メシア的王国の成就是、再臨以降に持ち越された。

(4) ヨハ1:11~12

「この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」

(5) 私たちへの適用

①神の痛み。

(例話) 母親との会話。「子どもについての心配はない」

②教会時代の伝道において、私たちも同じ痛みを経験する。